

2022 年度事業計画

I. 社会的養護の必要な子どもの自立支援

1. こども・若者未来基金

- ① こども・若者未来基金による、自立のおうえんを継続します。
- ② 自立援助ホーム、アフターケア事業者、児童養護施設、里親家庭などつながりのある子ども若者を、伴走者（支援者）とともに支援していきます。
- ③ こども・若者未来基金の寄付募集目標は、12,000,000 円とします。
- ④ クラウドファンディングなどを活用しながら、広く県民に普及していきます。
- ⑤ 9月をキックオフ月間として、情報を共有し、それぞれの組織に合った方法で寄付を呼びかけます。
- ⑥ ちばこどもおうえんだんの会員や寄付者には、12月のボーナス月に寄付を呼びかけます。また、シンポジウムなどの際に呼びかけをします。
- ⑦ 5/28（土）には、「こども・若者未来基金 2021 報告会」を開催します。
- ⑧ キックオフ月間にあわせ、9月、10月にシンポジウムを開催します。
- ⑨ こども・若者未来基金が周知されるよう、児童養護施設等へ向けて情報発信を積極的に行います。

2. 食糧支援

基金でつながった子ども・若者への食糧支援を実施します。

3. 就労支援

就労支援、居住支援について、関係機関と調整しながら連携をしていきます。

4. その他

- ① これまで5年間の実績を踏まえ、国、県、市に向けて政策提案をしていきます。
- ② 「今後の基金の在り方」について、他団体との意見交換を実施し、子どもの貧困対策計画を策定する自治体の動きや千葉県内の子どもたちの現状など情報収集して、検討を進めていきます。

II. 貧困家庭・要支援家庭の子どもの支援事業

1. ちば子ども虐待防止研究会（通称 JaSPCAN ちば）（2017 年度虐待防止学会ちば大会実行委員を中心とする団体）等と、ゆるやかに連携し、子どもたちの支援につなげます。
2. 千葉県内で子ども関連の活動をしている団体と連携し、啓発のイベントを実施します。

III. 里親家庭支援について

1. ちばこどもおうえんだんは、里親家庭の支援について設立趣旨で謳っています。また千

葉県の里親支援機関として位置づけられています。これまで不足していた里親家庭への支援を充実させ、社会的な認知度が増すことは、社会的養護を受ける子どもたちの健やかな成長に繋がっていきます。これまでの経験を活かし、千葉県・千葉市の里親関連の事業にも積極的に応募や参加し、関わっていきます。

2. 「千葉市里親委託等推進委員会」に参加し、千葉市における里親推進の状況把握、また関係機関や他団体との情報共有を進めます。

IV. 啓発・広報事業

1. 啓発事業

- ① 社会的養護下の子どもたちの自立について考えるきっかけとなり支援につながるよう、シンポジウムなどを開催します。
- ② 児童虐待防止に関する啓発活動を行います。

2. 広報事業

- ① ニュースレターやwebでの情報発信を通じて、法人の活動や情報を社会へ広く伝えます。
- ② ちばこどもおうえんだんに参加する県内3生協（パルシステム千葉・なのはな生協・生活クラブ生協）の機関紙等へ記事を書き、組合員に向け団体の活動について知らせます。
- ③ ホームページのリニューアルを検討します。

V. 調査研究活動事業

1. 必要に応じて、調査研究をします。

VI. その他

1. 2020年度「パルシステム給付型奨学金モデル事業」及び2021年度「パルシステム給付型奨学金」に推薦した大学生の伴走支援を引き続き行います。2022年度は新たに2名の大学生を「パルシステム給付型奨学金」に推薦しその伴走が始まります。おうえんだんスタッフの伴走も2名体制で行い、施設職員と連携しながら実施します。
2. 引き続き、「わくわくプロジェクトCHIBA」の事務局として活動していきます。2年あまりコロナ感染の影響を受け、実質的な活動ができずにいますが、状況を見ながらフリースタディ習志野に通う子どもたちや児童養護施設や学校等でのプログラム実施を目指します。また、今後の活動を担う人材の確保にも努めます。

VII. 組織運営

1. 運営体制

- ① 事業を円滑にすすめるために、以下の通り理事会等を開催します。

理事会：年5回

こども・若者未来基金運営委員会：おおむね2月に1回程度

こども・若者未来基金生協実務者会議：5回程度

2. 会員拡大について

- ① 認定NPOとして3,000円以上の寄付者（おうえん会員=賛助会員を含む）が年平均100人以上になるように会員の継続を促し、新たな会員の入会を目指します。
- ② 寄付者の寄付控除について、一層の周知を図ります。

【目標数】

会員種別		目標（人数・団体数）	目標（口数）
運営会員	個人	16人	20口
	団体	5団体	54口
おうえん会員	個人	150人	170口
	団体	10団体	12口